

奈良女子大学  
古代学学術研究センター

平成 26 年度

## 第 3 回月例研究会

日時：2014 年 8 月 6 日（水）16：30～

場所：生活環境学部会議室（生環 A 棟 1 階）

内容：古事記中巻における神と天皇

阪口 由佳（古代学学術研究センター）

古事記は上・中・下の三巻構成となっている。倉野憲司氏は上巻を「神の代」、中巻を「神と人の代」、下巻を「人の代」の物語であると定義している。

本発表では、中巻において天皇が天上の神、地上の神、人とどのような関係にあるかを指摘し、その推移を考察する。結果、それぞれの力関係が定位される道程を語るのが中巻だと考える。

下巻は「人」とのかかわり、すなわち皇位継承が主題となる。その皇位継承を示す「日継」の語は、中巻では応神記において初めて現れる。応神記において「神々との定位」という主題から「皇位継承」という主題に推移しており、下巻への橋渡しの役目を果たしていると考えられる。

ご自由にご参加下さい

奈良女子大学 古代学学術研究センター  
Phone&Fax：0742-20-3779  
E-mail：kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp